

2017 年度春学期授業評価アンケート集計結果について

2018 年 7 月 20 日

< 設問別 >

※設問は大きく四つのカテゴリー、< A : 履修者の自己評価 > / < B : シラバスについて > / < C : 担当者と授業について > / < D : 授業の成果について > に分けられ、全部で 10 の設問がある。これに加えて、設問 11 として < E : 授業外学修時間 > について尋ね、最後に、授業改善に向けた自由記述が出来るようになっている。

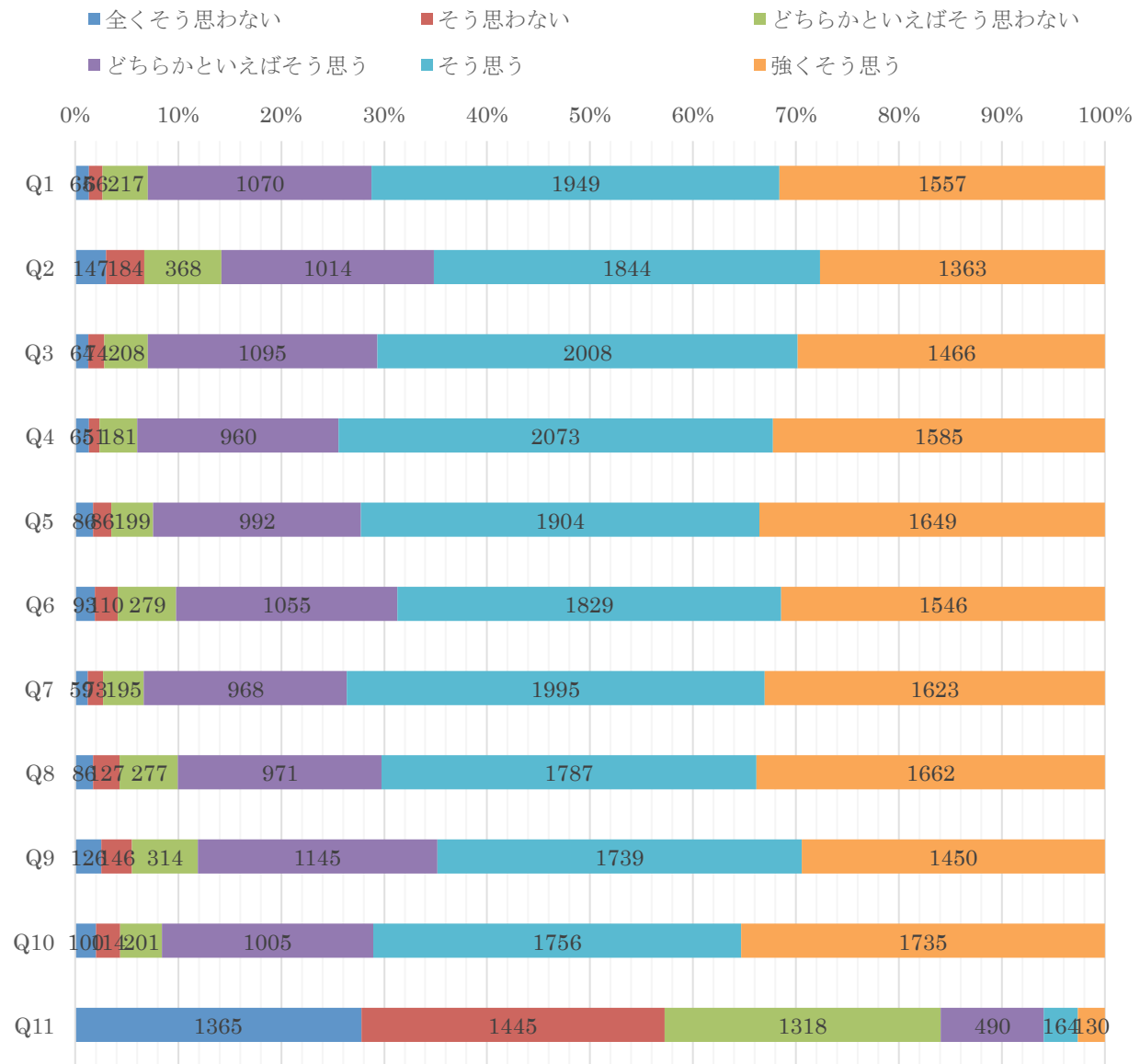
設問区分		設問
A	Q1	私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。
B	Q2	私は、この授業を履修する際、何を学修するかを理解するために、シラバスを読んだ。
C	Q3	担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。
	Q4	授業は、授業の目標達成のために計画的に進められた。
	Q5	授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。
	Q6	授業の内容はわかりやすかった。
	Q7	授業の進度は適切だった。
	Q8	授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。
D	Q9	私は、この授業によって学修意欲が喚起された。
	Q10	総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。
E	Q11	この授業の授業時間外の学修時間（授業 1 回ごとの平均）※該当するものにマーク ① 30 分未満、② 30 分～1 時間、③ 1～2 時間、④ 2～3 時間、⑤ 3～4 時間、 ⑥ 4 時間以上

※設問に対する回答（1～10）は、以下の選択肢から選ぶように求められた。

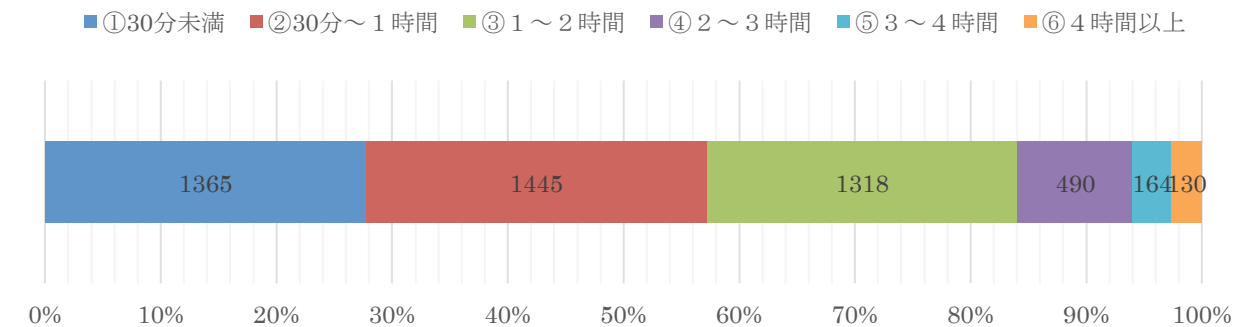
回答内容	マークシートの記入番号
全くそう思わない	①
そう思わない	②
どちらかといえばそう思わない	③
どちらかといえばそう思う	④
そう思う	⑤
強くそう思う	⑥

<教育課程全体>

2017年度春 科目全体



Q11 2017年度春 授業外学修時間 (全体)



のべ4924人からの有効回答（回収率75%）を得た。

教育課程全体として、ここ数年来特に変化なく、④「どちらかといえばそう思う」から⑥「強くそう思う」の肯定的評価を受けており、総合的には8割～9割程度のプラス評価を受けているといえる。

なお、今学期から、これまでのマークシートによる回答方式から、WEB上での回答方式となった。

設問区分ごとのコメント

A. 受講者自身の自己評価について

ここでは①～③の消極的回答は7%程度にとどまり、授業科目を意欲的に受けたと自己評価する学生が9割以上となる結果である（昨年度の5.7%よりも若干増えているが、昨年と変わらないと理解している）。

B. シラバスについて

ここでは①～③の消極的回答は、不思議といえばそうだが、昨年度の同学期とほぼ同じであり、依然として科目選択の際にシラバスに目を通していない学生が1割強ではあるが存在しており、授業の達成目標と自己の関心とのミスマッチなどを避ける上でも、読むことの重要性を引き続き説くことが肝要である。

C. 担当者と授業について

Q3～Q8の項目では、④～⑥の肯定的評価が9割程度に達しており、学部教育課程全体としておおむねプラスの授業評価を受けていると言える結果となった。

D. 授業の成果について

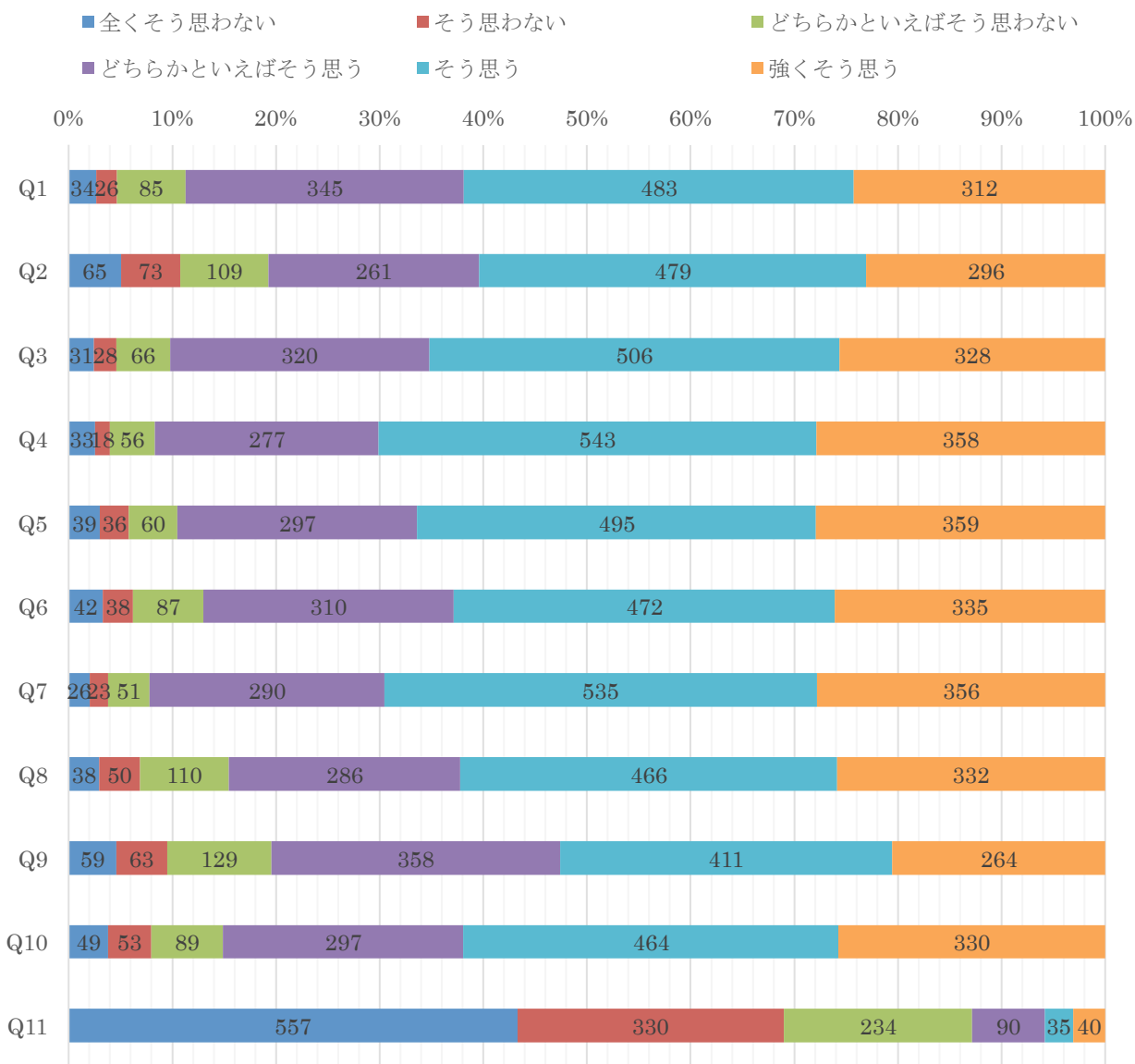
Q9の学修意欲が喚起されなかったと回答した（①～③）学生が10%を越えており（昨年度は9%）、Q10の授業が有益でなかったと回答をした（①～③）学生が8%を越えて（昨年度は6.3%）存在する。これをゼロにすることは容易ではないが、学部教育課程全体の授業成果についてとても肯定的に受け止めている学生が多いことをむしろ積極的に評価しておきたい。ただし、これが漸増傾向のはじまりにならないような受け止めも必要である。

E. 授業外学修時間について

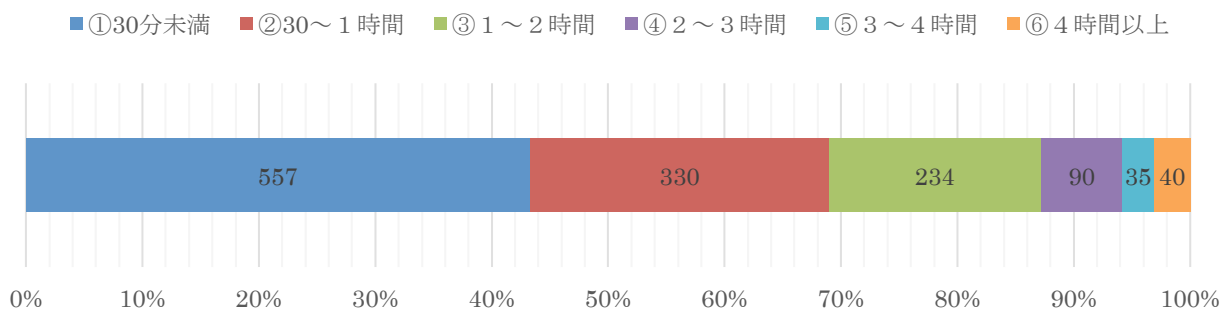
1単位科目（45時間の学修時間必要）では週1回の授業に対し授業外学修時間として1時間必要とされ、2単位科目（90時間の学修時間必要）では週1回の授業に対し授業外学修時間として4時間が必要とされている。昨年と同様に、①（30分未満）～③（1～2時間）で回答の8割を越えていることは由々しき状況であるといわざるを得ず、圧倒的に学修時間不足であることを示している。授業外学修で何をすべきかを指示するのみでなく、これを点検・評価する科目設計の実質化がますます求められることになりそうである。もちろん、学生たちの授業外学修時間を担保する学部教育課程の科目配置も同時に準備されなければならないだろう。

<教養教育科目>

2017年度春学期 教養教育科目



Q11 2017年度春 授業外学修時間（教養）



のべ 1286 名からの有効回答を得た。

教養教育科目は両学科の学生が履修する教育課程にあたるため、科目数および受講者数ともに多い。

教養教育課程としての全体的な傾向としては、全体科目の傾向を上回っている科目もあれば逆もあるが、おおむね学部教育課程全体の平均を若干下回っている結果となっている。これは過去においてとほぼ同様であり、大きな変動はみられない。

設問区分ごとのコメント

A. 受講者自身の自己評価について

程度の差はあれ意欲的に授業を受けたと自己評価する学生が 8 割以上いることは良いが、①～③の否定的回答が一昨年度 7%、昨年度 10%、本年度は 12% となり漸増している。教養教育科目の教育課程上の意義などを今一度学生に意識づける必要があるのかもしれない。

B. シラバスについて

①～③の回答は 2 割近くになっており、昨年度に 14.3% に下がった（一昨年度 16.7%）数字がまた増えている。科目選択の際にシラバスに目を通していない学生が 2 割弱ではあるが存在することはやはり問題であり、特に教養教育科目の選択において読むことの重要性を引き続き説くことが必要である。上記の A とあわせ、学部全体に比して教養教育科目においては、評価が下回っている。

C. 担当者と授業について

当該項目では、Q3 から Q8（教員の授業設計と運用および成果）においては、8 割以上からおおむね肯定的な授業評価を受けているといえる結果である。

D. 授業の成果について

Q9 の学修意欲が喚起されなかったと否定的な回答をした学生が 20% 程度（昨年 13%；一昨年 14%）、Q10 の授業が有益ではなかったと回答をした学生が 15% 程度存在するが、おおむね教養教育科目の授業成果をかなり肯定的に受け止めている学生が多いととらえて良いと考えられる。ただし、やはり教養教育科目の教育課程上の意義などを今一度学生に意識づける必要があるように思われる。

E. 授業外学修時間について

週 1 回の授業に際し 4 時間の授業外学修が必要となる 2 単位科目が多い教養教育科目での今回の結果は（4 時間以上と回答した学生は昨年と同様 4%）、圧倒的に学修時間不足であることを示している。特に全体と比較して、①の回答者が 4 割を超えていることは問題と言わざるを得ず（授業に出席するだけになっている）、講義系の教養教育科目こそが授業外学修で何をすべきかを指示するのみでなく、これを点検・評価する授業科目設計の実質化がますます求められることになりそうである。もちろん、繰り返しになるが、学生たちの授業外学修時間を担保する教育課程全体における科目配置も同時に検討されなければならないだろう。

（文責：教育支援部長 山川）